

be 動詞と一般動詞

動詞は大きく be 動詞と一般動詞の 2 つに分けることができます。
 それでは、それぞれの動詞について解説していきます。

① be 動詞

be 動詞とは、

be、am、is、are、was、were、been

の7つです。

be 動詞は、主語(I, you, it など)によって変わります。

主語	原形	現在形	過去形	過去分詞形
I	be	am	was	been
3 人称単数(he, she, it など I と you 以外の単数)		is		
you, we, they, 複数		are	were	

be 動詞には「～です」と「～ある(いる)」の2つの訳があります。

「～です」

主語と be 動詞の後ろをイコールの関係にします。

例文

I am a student. (私は学生です。)

この例文では“私”と“学生”はイコールの関係です。

「～ある」

主語の存在をあらわします。“主語は、～にある(いる)”

例文

His house is near the station. (彼の家は駅の近くにある。)

② 一般動詞

一般動詞とは、be 動詞以外の動詞のことです。run(走る)、play(遊ぶ)、study(勉強する)など。

人称と 3 単現の s

例文

I run.

You run.

He runs.

主語が I(1人称)と you(2人称)で現在(今のこと)のお話の時に使う動詞は、run(走る)はそのまま run となります。

主語が **3人称、単数、現在**の話をしている時は**3単現**のs(es)を付けます。run(走る)は runs となります。

3人称	I, you, we 以外の名詞や代名詞のこと
単数	1人、1個のこと。数えられない名詞も単数扱い
現在	今現在のこと

規則動詞・不規則動詞

一般動詞の過去形には、規則動詞と不規則動詞があります。

例文

I played soccer yesterday. (私は昨日サッカーをしました。)

規則動詞

規則動詞を過去形、過去分詞形にするには、

	原形	過去形	過去分詞形
①	look	look <u>ed</u>	look <u>ed</u>
①	like	lik <u>ed</u>	lik <u>ed</u>
②	stop	stop <u>ped</u>	stop <u>ped</u>
③	study	stud <u>ied</u>	stud <u>ied</u>
③※	play	play <u>ed</u>	play <u>ed</u>

- ① ed(d)を動詞に付ける。
- ② 最後の子音字を重ねて ed を付ける。
- ③ 語尾が「子音字+y」の y を i に変えて ed を付ける。
※ 語尾が「母音字+y」の場合は、そのまま ed を付ける。

不規則動詞

不規則動詞には、4パターンあります。

	原形	過去形	過去分詞形
	A	B	C
① AAA型	put	put	put
② ABA型	come	came	come
③ ABB型	make	made	made
④ ABC型	begin	began	begun

- ① AAA型は、原形・過去形・過去分詞形がすべて同じです。
- ② ABA型は、原形と過去分詞形が同じです。
- ③ ABB型は、過去形と過去分詞形が同じです。
- ④ ABC型は、原形・過去形・過去分詞形がすべてちがいます。